

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2791400258		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリこまち箕面		
所在地	箕面市西小路4-3-3		
自己評価作成日	2020.10.15	評価結果市町村受理日	令和2年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGBビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた懐かしい環境の中、心のケアに着目し、楽しい雰囲気づくりを心がけています。また利用者様とのコミュニケーションを重視した、寄り添ったケアを念頭にしています。他方、地域密着を果たすべく地域協議にも参加し、他事業者とのサロン参加など地域交流も積極的に進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、東証マザーズに上場している(株)リビングプラットフォームグループ(札幌・仙台・関東地区を中心に高齢者・障がい者・保育事業を展開)に属し、関西では箕面市で2つのグループホームを運営している。当事業所は、17年程前に元女子寮を改造して開設され、2017年4月に現事業主体に移管された。現施設長は、箕面市の2事業所共通の理念を作成し、職員と共に、利用者様に寄り添った支援に取り組んでいる。利用者ができることは自身でしてもらって生きがいを見出すよう支援しているが、難しい場合は、心のケアを第一に職員が寄り添って声かけをし、利用者の生命・生活・人生を支援している。まず試してみて最善のアプローチを見出していく。何事も利用者ファーストで考えている。昭和の雰囲気が残るホームの中で、人生の1ページを快適に過ごしてもらうよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念掲示いつでも職員の目に届くところに置いている。	企業理念「感謝と創造」の他に、事業所理念「利用者様とご家族様の想いを大切に、利用者様の人間としての尊厳を常に守り、利用者様の生命・生活・人生の支援を、利用者様に寄り添いながら行う我らであれ」を策定し、1階の事務所・廊下と2階のミーティングルームに掲示して、利用者・家族・職員に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を図るべく、地元地域活動の一環として近隣デイサービスとの交流をしている。	地域の民生委員・児童委員が主導して、近隣デイサービスセンターと合同で3か月に1回サロンを開き、事業所の利用者4～5名が参加して、テーマを決めて話したり雑談したりしている。近くの小学校の児童が朝顔を持って来てくれ、利用者は水やりして花を愛でている。紙細工のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誕生日散歩で近くの喫茶店でお祝いイベントを実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、家族様、行政サイドの意見を活かしている。	近くの系列グループホームと合同で会議を開催し、市職員・地域包括支援センター職員・知見者(作業療法士が時々)が参加し、事前に全家族に案内して、多い時は家族5名程が参加している。コロナ禍で4月からは書面開催としているが、議事録を全家族に配付し、今回の外部評価結果も開示するとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	箕面市広域福祉課と連携をとり、情報交換に努めている。	市の広域福祉課とは、実地指導・各種変更届・コロナ対策連絡などで関係している。大阪府主催の研修の他に、市の地域包括ケア室主催の研修にも参加している。3か月に1回の市グループホーム連絡会に参加し、意見や情報を交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的に行わないことで意思統一が図れている。	大阪府の「身体拘束ゼロ推進標準マニュアル」を基に、身体拘束のないケアを実践している。管理者・計画作成担当者・主任2人で身体拘束適正化委員会を毎月開き、全体会議で報告して、勉強会も行っている。玄関は暗証番号式で施錠しているが、利用者の様子を見て一緒に作業したりして閉塞感をなくしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	掲示物やミーティングなどで虐待に関する意識啓蒙を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様各人の経済状況・支援状況を鑑み、適宜包括支援センターや福祉事務所と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明するとともに不明点や質問に対して適宜対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を放置せず出来るだけ反映させるよう努めている。	家族の訪問時、介護計画の作成時、運営推進会議時や、利用者が特別に変化した時の電話で、利用者の様子を知らせて意見・要望を聞いている。階段上の2階の扉が危険だ、との意見に沿って、寄付金も得て付け替えたり、鍵や共用部のカーテンを整備したことがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との日頃のコミュニケーションの中で情報収集し活かしている。	日々の業務中や、毎月の全体会議で管理者は職員の意見を聞き、年1～2回の面談でも話し合っている。月1回本部社員が訪れ、また月1回リモートで社長はじめ幹部と管理者が会議し、管理者が月報を提出する時も、職員の意見・提案を反映する機会がある。風呂入口の安全なロック方法など、意見を反映した事例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営的な側面があるが、出来る限り職員個々の頑張りに応えるべく努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上の悩みに答え、適宜面談を行い、アドバイス、またOJTを通して行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕面市グループホーム連絡会でお互い話し合い、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ち、習慣を探りながら、安心確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望や意向については極力耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	楽しく過ごして頂くために様々な検討を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のニーズ、訴えを聴くに当たり、相手の状況や想いを胸に共感しあえる関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族様の気持ち、状況を考慮し、意見を聴いて対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や知り合いの面会は家族様に確認した上で推奨している。	入居時に利用者・家族から馴染みの関係を聞き、フェイスシートに記載して職員間で共有している。家族の了解を得て、かつてのマージャン友達や内職作業所の職員などの訪問を受け入れている。家族と共に一時帰宅したり、法事やショッピングモールに出かける利用者もいる。電話の取次ぎや携帯電話の所持も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等でのお互いを結びつけるコミュニケーション作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様の求めに応じ、相談に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介助や誘導に際して必ず本人に確認するところから始めている。	日常の関りの中で把握した利用者の意向は、ケース記録に記入して職員間で共有している。把握困難な人は、仕草や態度を注視したり、二者択一で問いかけたり、試した食事への反応などで把握している。利用者の希望に沿って、散歩やドライブに出かけたり、好きな餃子パーティーを開いたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの情報をもとに尊重したケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	立位、歩行、食事などADLや、昼夜逆転など適宜対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、ケアプランは必ず家族様に確認頂き、意見を求めている。	業務日誌・ケース記録・モニタリングなどを基に、日常的に把握した利用者・家族・医師・看護師の意見も反映して介護計画を作成している。計画は、長期目標1年・短期目標半年とし、毎月の全体会議でケース毎の検討会議を開き、毎月モニタリングして半年毎に見直している。計画は家族に説明し、話し合いをして同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に基づいたモニタリングを行い、今後のケア実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方々の状態に合わせた新たな試みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内グループホーム連絡会での意見交換、地域協議への参加、他事業者との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者主体でその方の症状に合わせた診療医の選択を適宜行っている。	かかりつけ医は、利用者・家族の要望を尊重し、同意を得て決めている。現在、協力医と従来のかかりつけ医(内科・心療内科)は月2回の訪問診療を行い、24時間対応の体制を敷いて、利用者の必要な医療が受けられるよう支援している。歯科は希望に応じて月1・2回の往診があり、歯科衛生士は週1回訪問している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な内容はまず看護師に報告、指示指導を仰ぐようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会時の情報収集、退院カンファレンス参加などを基本的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を実施しており、医師・看護師・介護員協働のもと、方針に従って行っている。	重度化や終末期の在り方に向けた指針を、契約時に利用者・家族に説明し、納得を得ている。事業所として可能な限り重度化や看取りに対応していく方針で、最善を尽くす努力をしている。過去3年半に5名を看取り、本人の人格や尊厳を失わないよう、逝去時ケアの支援も丁寧に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	口頭での場面想定による指示指導を行い、緊急時に対応できるよう教育している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練によりシュミレーションし、避難口・消火器の位置、避難経路について各自把握している。	「災害対策マニュアル」を作成し、必要な防災設備(スプリンクラー・自動火災通報装置・誘導灯など)を整備し、水・保存食(缶詰など)・パッドなども備蓄している。職員5名程が近くに住んでおり、有事にはすぐに駆け付けられる。しかし、2018年8月以降、避難訓練を実施していない。	災害は日常の備えが大切であり、避難訓練は早急を実施する事を望む。夜間は夜勤職員2名のみと手薄であり、災害が発生した時にどう対応するか、災害の種類毎に話し合うことが大切である。普段から地域住民と協力体制を築き、消防署の協力を得て、年2回消防訓練を実施し、防災対策の充実強化に取り組むことを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員お互いが気づいた点を意見できる風土を心がけ、各自が努めている。	日々の介護の現場で、利用者の誇りやプライバシーに注意を払いながら、利用者のペースに合わせたケアに努めている。排泄介助時は丁寧に声かけし、冬の寒い時などは素早い着替えを心がけている。居室に入る時はノックや「失礼します」と必ず声かけするなど、接遇には特に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本位を念頭に、声掛けからそうしていくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面には特に注意し、場合によっては臥床を促す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時宜に応じた対応を心がけ、整容、衣類の洗濯等留意して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方のレベルに合わせて盛り付け・配膳・洗い付け・米砥ぎなど準備してもらっている。	食材と献立は外注サービスを利用し、1階の台所で職員3人が交代で調理している。利用者もできる範囲でテーブル拭き・盛り付け・食器洗いなどに参加している。食事に時間がかかる利用者にはゆっくりと、本人からもう食べないという動作をするまで待っている。利用者と共に、食事レクリエーションや手作りおやつも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェックを行いながら、栄養摂取には留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ナイトケア時には舌苔磨き含め、歯ブラシの選択も都度行い、本人に合わせた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンと本人の尿意訴えに適宜対応している。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握して、できるだけトイレで排泄するよう、自立に向けた支援をしている。トイレまで自立歩行の難しい利用者の移動には、寝たきり予防も兼ねて手引き歩行で誘導している。夜間は3時間おきに見まわりして、利用者個々に応じておむつ交換・トイレ誘導・ポータブルトイレ使用をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には下剤にとどまらず、きなこやヨーグルトなど消化を促すものを試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スケジュールは決めるが、本人の意思を尊重し、延期や清拭を臨機応変行っている。	浴槽は個浴で、利用者は週2回入浴している。保湿効果のある入浴剤を入れて「あー良かった。楽しかった」と湯上りの満足の声が聞こえる、入浴のない日には、清潔保持のために足浴をしていて、足の水虫や爪白癬の改善が表れている。入浴拒否の利用者には無理強いをせず、日時変更や清拭に替えたりして、柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間に合わせた就寝介助の順番など工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性・重大性を認識し、与薬、体調変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクリエーションとして、おしぼり巻きや洗濯たたみ始め、本人の出来ることを仕事として行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候を考慮の上、散歩や誕生会、ドライブなど適宜実施している。	従来は、気候の良い日には事業所周辺の散歩や買い物に行ったり、遠出のドライブや家族との外食など、多くの外出を楽しんでいた。コロナ禍の今は、玄関を開けて椅子に座って外気浴を浴びたり、ドライブを兼ねた外出に力を入れ、花見や紅葉見物などで、季節の移り変わりを車の中から感じ取ってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は紛失した場合の責任問題もあり、原則不所持としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様や家族様からの要望に対し、適宜、事業所の電話で話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員各自が気づいた点に配慮し、工夫を凝らして実施している。	1階のリビングルーム・風呂・トイレは明るくゆったりしている。玄関横にテレビと長椅子が設置され、みんなの憩いの場となって、毎朝利用者全員が集まり、歌と体操で一日が始まっている。2階の食堂は昭和時代の名残があり、昔の茶の間の雰囲気がある。廊下の壁に、職員と利用者が共作した箕面のゆるきや「ゆるる君」が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになるのに居室に出入りすることは自由にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真など、広さの許す限り自由に置いてもらっている。	各居室にベッド・エアコン・防災カーテン・押し入れ・流しが付いている。利用者は、家族の協力を得て、自宅で使い慣れた家具類や思い出の家族写真・ぬいぐるみなどを持ち込み、それぞれ個性ある自分らしい部屋を作り、快適な暮らしを楽しめる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が良くわかるように目立つように工夫している。		